

マラウイでTシャツアート展 高知県民が現地で活躍

アフリカ大陸南東部に位置するマラウイ共和国のカウエチヘルセンターで11月14日(火)、「ひらひらフレンドシップ」が実施され、黒潮町とマラウイのつながりができました。



高知県出身・中平有さん

今回の企画は独立行政法人国際協力機構(JICA)四国支部により企画されたもので、同機構の活動理解促進調査団として四国各県より視察団の派遣があった際に、ムジンバ県北部保健事務所カウエチヘルセンターで行われました。展示されたTシャツは、今年5月にNPO砂浜美術館による「Tシャツアート展」へ同支部が出席していた作品で、マラウイの人々は興味津々の様子でした。

また、今回この企画が実施された場所は、青年海外協力隊である高知県出身の中平有さんの活動拠

点であり、栄養士として母子保健や食事指導に携わっています。

中平さんは高知市出身、以前は佐川町で行政職員として勤務していたこともあり、その際にも住民に対し栄養のある食事指導をしていました。「国を変えてもその頃の経験は活かしている」と話し、現在、乳幼児を育てる母親に対し、自分で作成した紙芝居を用いながら栄養バランスのとれた料理方法を教えています。

マラウイは世界最貧国ともされる国で中平さんは「海外は欧米だけではない。こういう世界もあることを日本の子どもたちに伝えたい」と話します。中平さんの任期は2年、まだまだ活動はこれからというところですが、「帰国後は地元の人たちのために何か貢献できれば」

と、今回の経験を、帰国後、地元へ還元できるよう意気込んでいました。



アフリカ・マラウイでTシャツひらひら

第2回黒潮町紅白歌合戦

第2回黒潮町紅白歌合戦が11月4日(土)、ふるさと総合センターで開催され、11組計24人の出場者が歌声を披露しました。

今回で2回目となる同大会は、NPO砂浜美術館の主催で、町民に大きなステージで歌声を披露する楽しみや、歌を聴き楽しむ機会を作っていききたいとの思いで開催されています。

出場者は小学生から83歳までと幅広く、夫婦での出場や、家族や友達同士でステージに上がり、日頃の練習の成果を発揮しました。

歌合戦は赤組と白組の激戦の末、赤組が勝利し、特別賞は、パフォーマンスのバランスに優れた三保木明美さん、高音の伸びと将来性を感じられた家族参加の森稟花ちゃんに贈られました。



特別賞受賞の三保木明美さん

入野松原入野・浮鞭海岸一斉清掃

11月19日(日)、入野松原保存会主催「入野松原、入野・浮鞭海岸一斉清掃」が行われ、2トントラック2台分のゴミが集まりました。

入野松原保存会は平成元年に結成された団体で、全国の松原サミットやシンポジウムへの参加、記念植樹や勉強会などを行い、長年入野松原の保存に取り組んでいます。



入野松原の清掃

年1回行われる清掃は、毎年大勢の人が参加して地元の海岸の美化と保存に貢献しています。

家族で3回目の参加となった柿内睦ちゃん(8歳)は、「一生懸命拾ったけど、まだまだゴミが沢山ある。次も参加したい」と話し、お父さんは「娘が参加すること、地元の人を大事にしようという思いが育ってくれば」と話していました。